

なに?

なあ凜



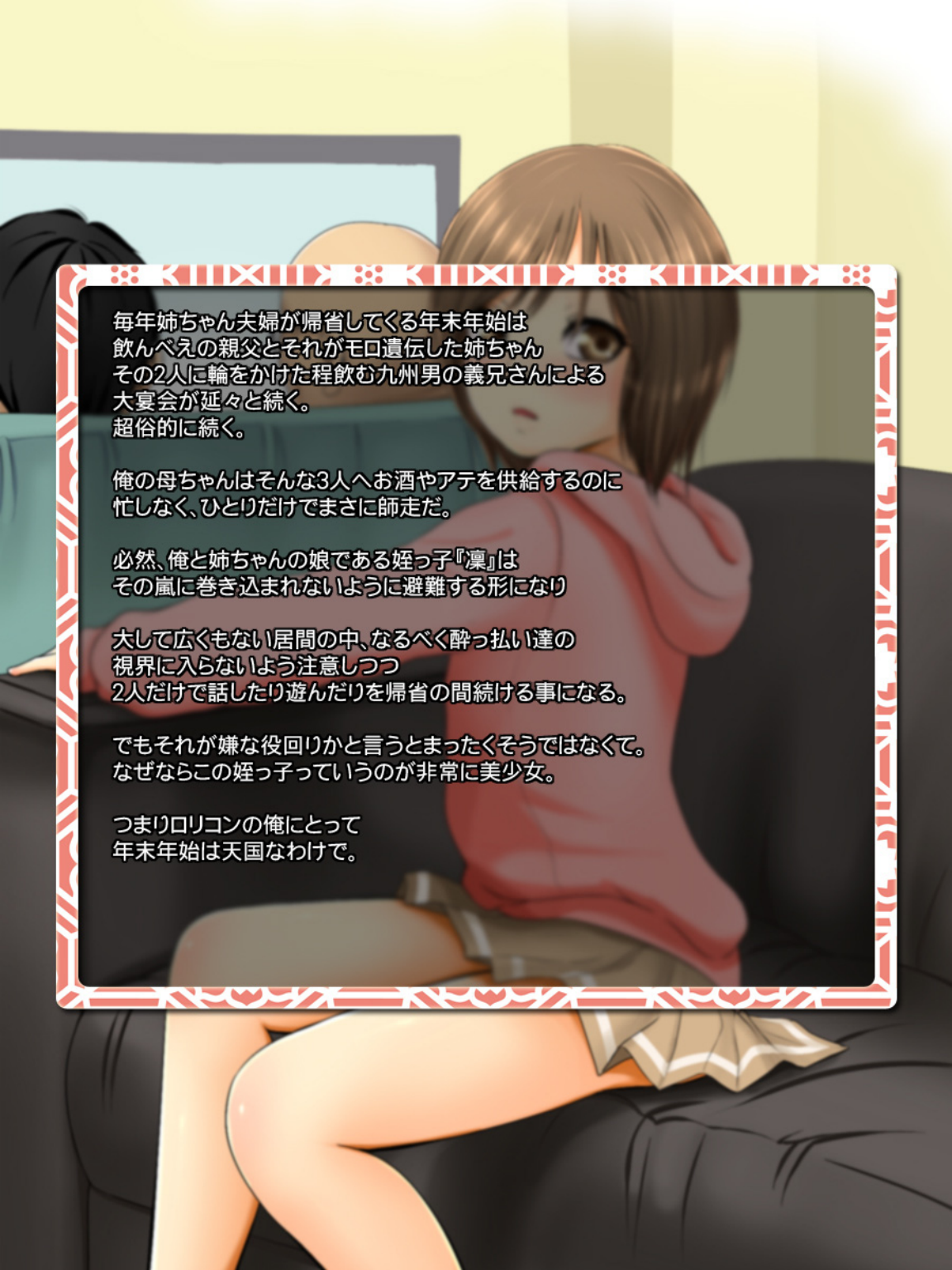
おじぎの話だけども...

おじぎ
おじぎ
おじぎ





あ、いやいや
その事じゃなくなつて…



毎年姉ちゃん夫婦が帰省してくる年末年始は
飲んべえの親父とそれがモロ遺伝した姉ちゃん
その2人に輪をかけた程飲む九州男の義兄さんによる
大宴会が延々と続く。
超俗的に続く。

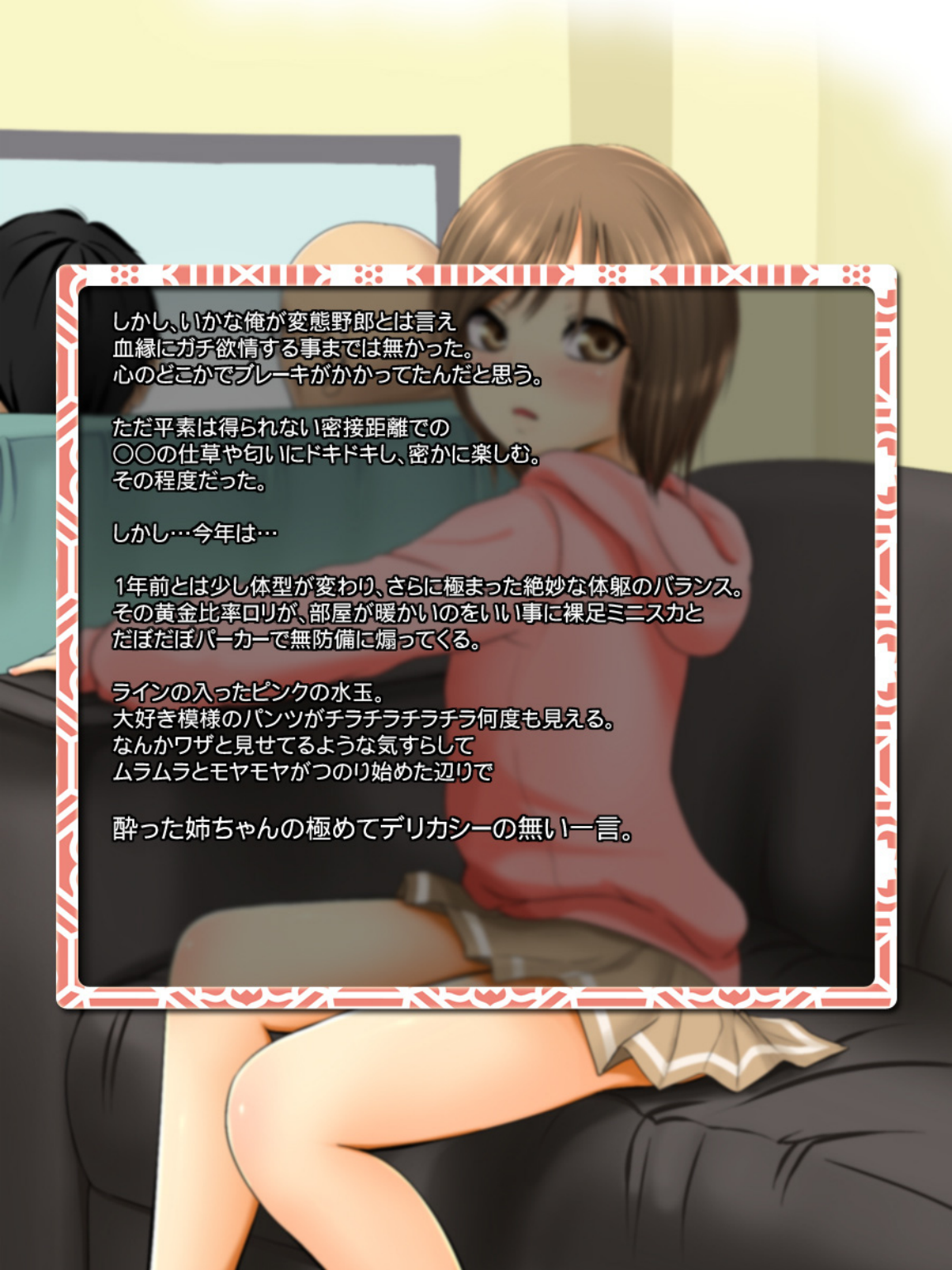
俺の母ちゃんはその3人へお酒やアテを供給するのに
忙しく、ひとりだけでまさに師走だ。

必然、俺と姉ちゃんの娘である姪っ子『凜』は
その嵐に巻き込まれないように避難する形になり

大して広くもない居間の中、なるべく酔っ払い達の
視界に入らないよう注意しつつ
2人だけで話したり遊んだりを帰省の間続ける事になる。

でもそれが嫌な役回りかと言うとまったくそうではなくて。
なぜならこの姪っ子っていうのが非常に美少女。

つまりロリコンの俺にとって
年末年始は天国なわけで。



しかし、いかな俺が変態野郎とは言え
血縁にガチ欲情する事までは無かった。
心のどこかでブレーキがかかってたんだと思う。

ただ平素は得られない密接距離での
〇〇の仕草や匂いにドキドキし、密かに楽しむ。
その程度だった。

しかし…今年は…

1年前とは少し体型が変わり、さらに極まった絶妙な体躯のバランス。
その黄金比率ロリが、部屋が暖かいのをいい事に裸足ミニスカと
だぼだぼパーカーで無防備に煽ってくる。

ラインの入ったピンクの水玉。
大好き模様のパンツがチラチラチラ何度も見える。
なんかワザと見せてるような気すらして
ムラムラとモヤモヤがつのり始めた辺りで

酔った姉ちゃんの極めてデリカシーの無い一言。



「この子さあ～

クリスマスに彼氏と初えっちしたっぽいんだよね～」

「お、お母さんっ!!し、し、してないよっ!」

「がははははっ!凜ちゃん、避妊はしっかりなあ!」

「僕も初体験はそんなくらいだったですよ～がっはっは!」

「してないって言ってるでしょおじいちゃん!!お父さんっ!!!」

いつもとは違う年の瀬が……………始ったのかもしれない。

欲しいものがあるって
言ってたろ

ああ……うん

おちわらうかね？

お年玉だけじゃ
足りないんだろ？

まーん
びすね



おじさんは今回
いくらくれるの？

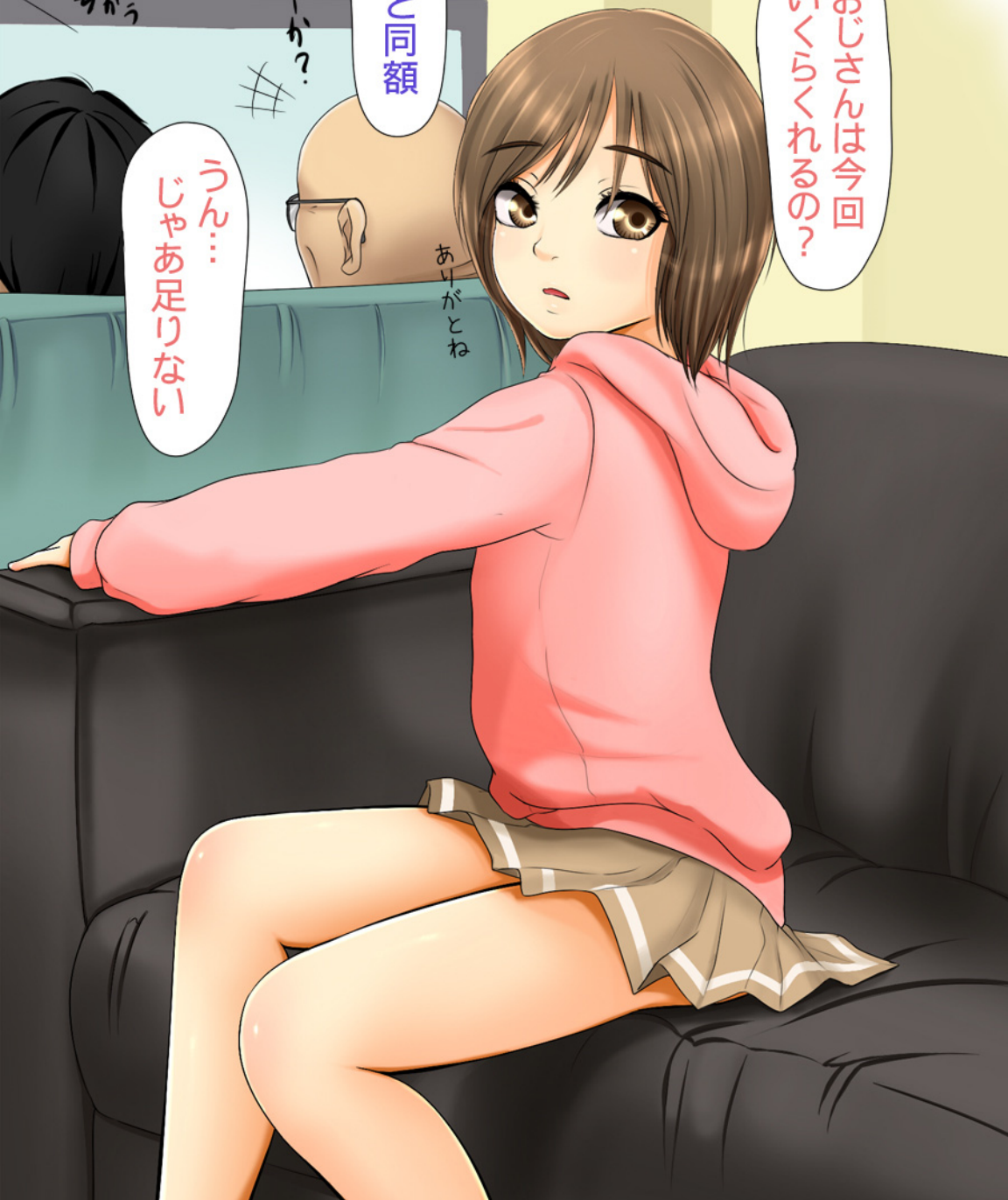
去年と同額

うん…
じゃあ足りない

んーか？

あーがとね

いやおじさんか
ちがう



お年玉…
超UPする方法が
あるけど…

え？どんなコト？

ちよう？

えーほんまかいな

えー





ぜえ〜〜〜〜つたいに
約束守れるか？

…うん…

あはは

わははは

ははは

フム



約束守ったら
去年と同額プラス…
こんだけあげる

えっ!?!?
万!?!?

!!!
!!!

あ、あれで

あらは
ねは





うん
万

う、うそ。そんなにつ！？
うんうん、守る守る！

アッ
アッ

ほんとかかな

ええ



それじゃちよっと
廊下に...


うん♪うん♪
いく♪いく♪

おっ
おっ

お、おじさあさん…

なんだい？

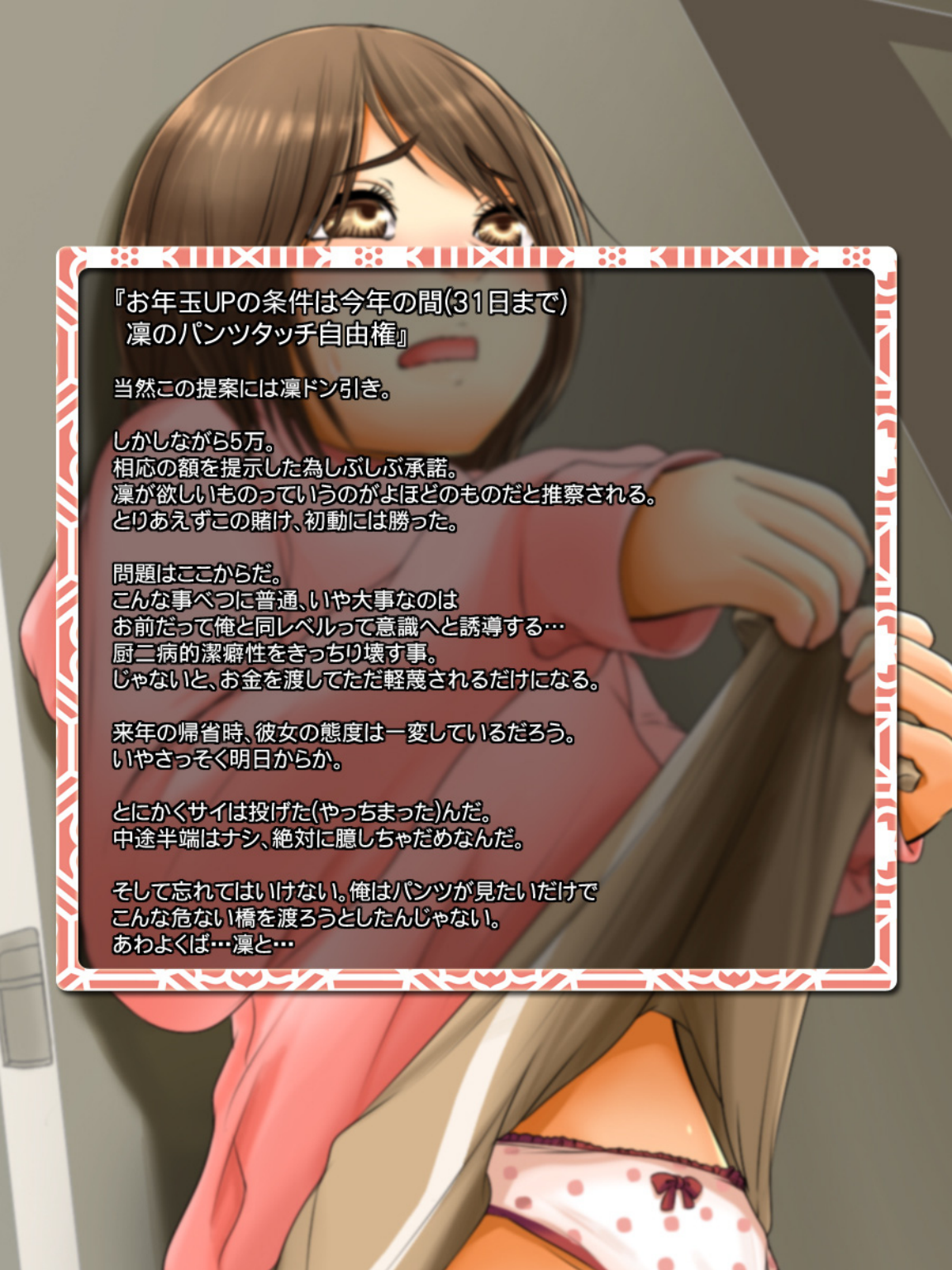
フワッ



わたし今かなり
引いてるんだけど…
まさかこんな事言う人だとは
思わなかった…

ゲンメツ

金の為にパンツ見せながら
ナニを言う
どっちもどっちだぜ…



『お年玉UPの条件は今年の間(31日まで)
凧のパンツタッチ自由権』

当然この提案には凧ドン引き。

しかしながら5万。
相応の額を提示した為しぶしぶ承諾。
凧が欲しいものっていうのがよほどのものだと推察される。
とりあえずこの賭け、初動には勝った。

問題はここからだ。
こんな事べつに普通、いや大事なものは
お前だって俺と同レベルって意識へと誘導する…
厨二病的潔癖性をきっちり壊す事。
じゃないと、お金を渡してただ軽蔑されるだけになる。

来年の帰省時、彼女の態度は一変しているだろう。
いやさっそく明日からか。

とにかくサイは投げた(やっちまった)んだ。
中途半端はナシ、絶対に臆しちゃだめなんだ。

そして忘れてはいけない。俺はパンツが見ただけで
こんな危ない橋を渡ろうとしたんじゃない。
あわよくば…凧と…

「…やっぱりロリコン…だったんだ…」

「やっぱりってどういう事だよ。」

「…彼氏に…おじさんの事いろいろ話してたら
絶対そうだって…」

(そう思ってたんなら
なんでわざわざこんな服で来るんだよ…
にしても彼氏め…ごんにやる…)

「まあ心配するなって。とはいえ俺は無害系だから。」

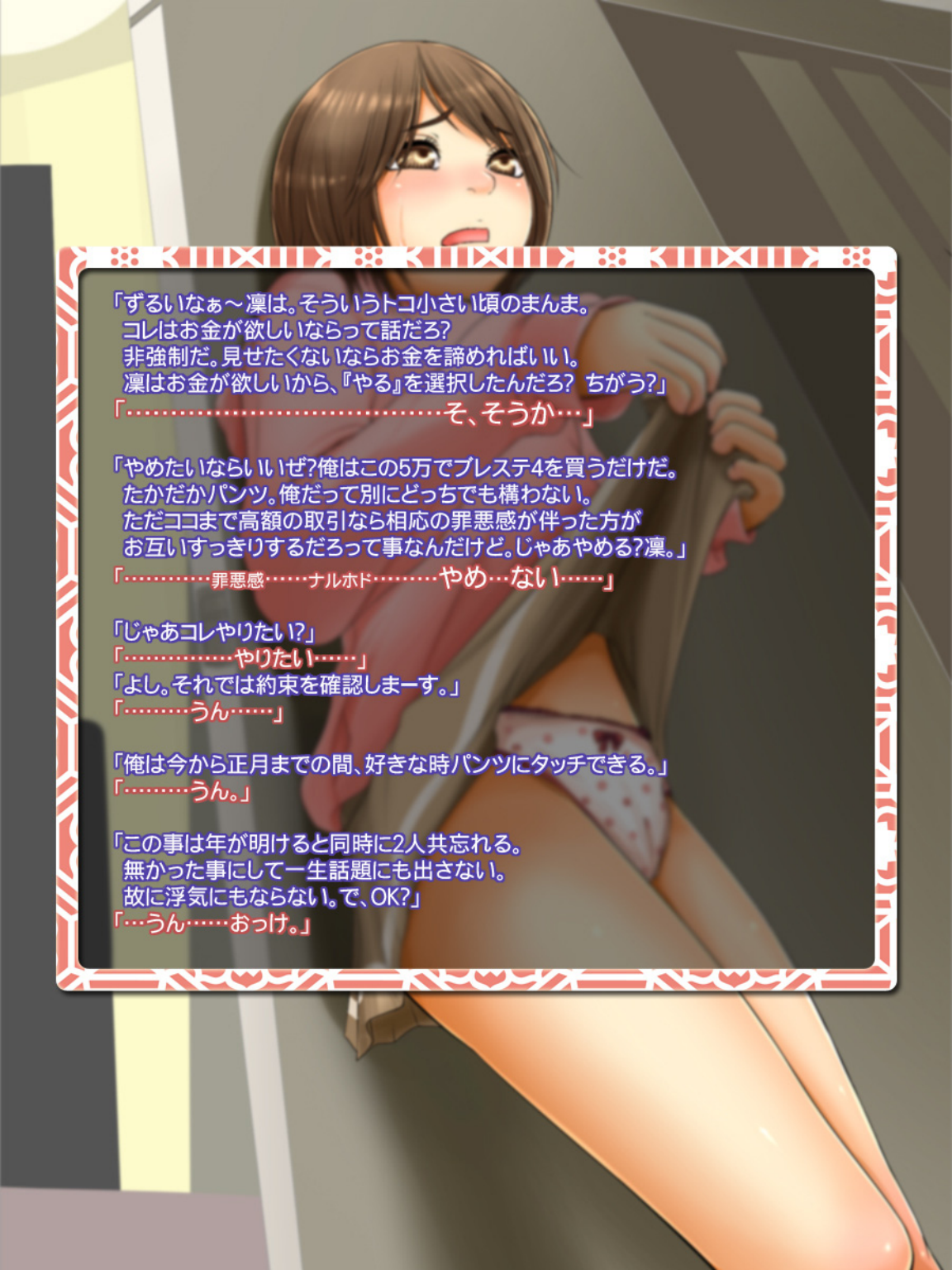
「意味わかんない……………」

100歩譲ってロリコンはまあ良いとして…引くには引くけど…
そんな人今どきいっぱいいるし…

でもさ、姪のパンツ見て嬉しい？」

「それを言うなら叔父にパンツ見せてまでお金欲しい？
お前だって言ってみれば叔父相手のプチ援交じゃん。」

「え、えんっ!?……………見せてって言ったのは
おじさんじゃん…」



「ずるいなあ～凜は、そういうトコ小さい頃のまんま。
コレはお金が欲しいならって話だろ？
非強制だ。見せたくないならお金を諦めればいい。
凜はお金が欲しいから、『やる』を選択したんだろ？ ちがう？」
「……………そ、そうか……」

「やめたいならいいぜ？俺はこの5万でプレステ4を買うだけだ。
たかだかパンツ。俺だって別にどっちでも構わない。
ただココまで高額取引なら相応の罪悪感が伴った方が
お互いすっきりするだろって事なんだけど。じゃあやめる？凜。」
「……………罪悪感……………ナルホド……………やめ…ない……………」

「じゃあコレやりたい？」
「……………やりたい……………」
「よし。それでは約束を確認しまーす。」
「……………うん……………」

「俺は今から正月までの間、好きな時パンツにタッチできる。」
「……………うん。」

「この事は年が明けると同時に2人共忘れる。
無かった事にして一生話題にも出さない。
故に浮気にもならない。で、OK？」
「…うん……………おっけ。」

じゃあ改めて

凜ちゃんの
お年玉UP作戦開始…する？
開始して欲しかったら
そう言っ

か、開始して…
ください…

がははははは

あははは



了解
ほいこと...

フェー
うわっ
はあー

もに♡

λw

おせー!!



了解
ほしいこと...

おせー!!

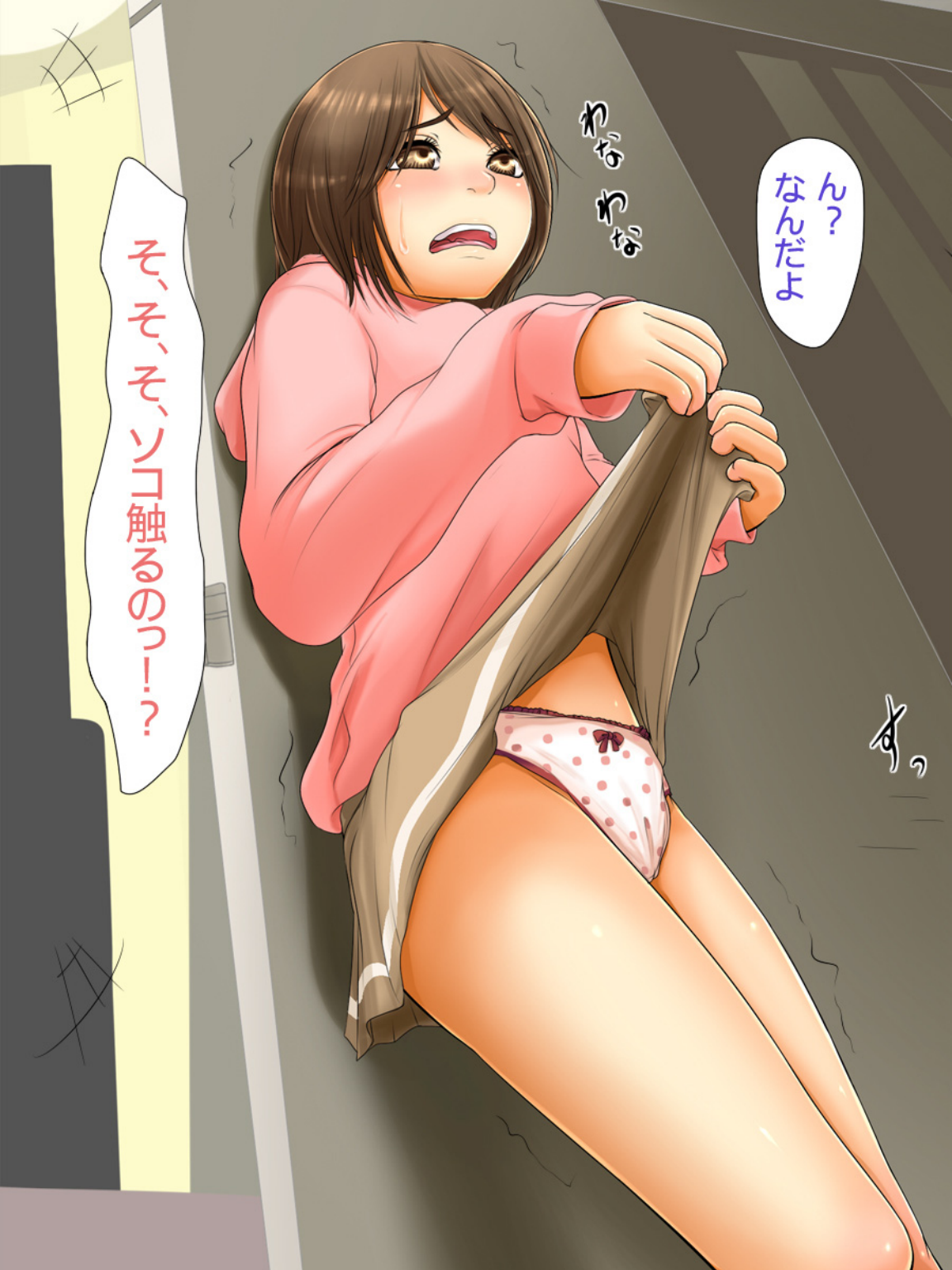
おせー!!

そ、そ、そ、ソコ触るのっ!?!

わわわわ

ん?
なんだよ

すっ



ソコもなにも俺は
『パンツ』に『タッチ』してるんじゃない
それとも早くも約束破る？
自分で開始してって言うって

ちゅっ
はっはっはっ

うん……ぞ



「っ……………」

ほっそり長いあんよの間に手を差し込むと
なんとも表現しがたい感触の柔肉が指先に吸い付き
少し湿った温もりが俺の股間を反応させる。

何度となくオムツを替えて来た程昔から知ってる子で
その時は「まんこ…」ぐらいにしかなかったここ。

10年も経たない内に
『せがまれて一緒にお風呂に入って同じベッドで寝る』から
『頭を触っただけで「ん?」って反応される』関係値に変化。

これがガキんちょから女の子への成長なのだろうが
子供の居ない俺が僅かながらに義兄さんの感じているだろう
子離れの切ない気持ちを理解するに至る程
凜との付き合いは長く、情も深い。

そういった歴史があるが故に
凜への女性としての体の変化に対する興味と
血縁としての自制が俺の中に同程度ずつ育ち
かわいい姪を持つ、世の多くのロリコンと同様な
心のバランスを保っていたわけだが…
ここへの探究心に粉々に壊された気がする。

.....ね、ねえ
おじさん.....

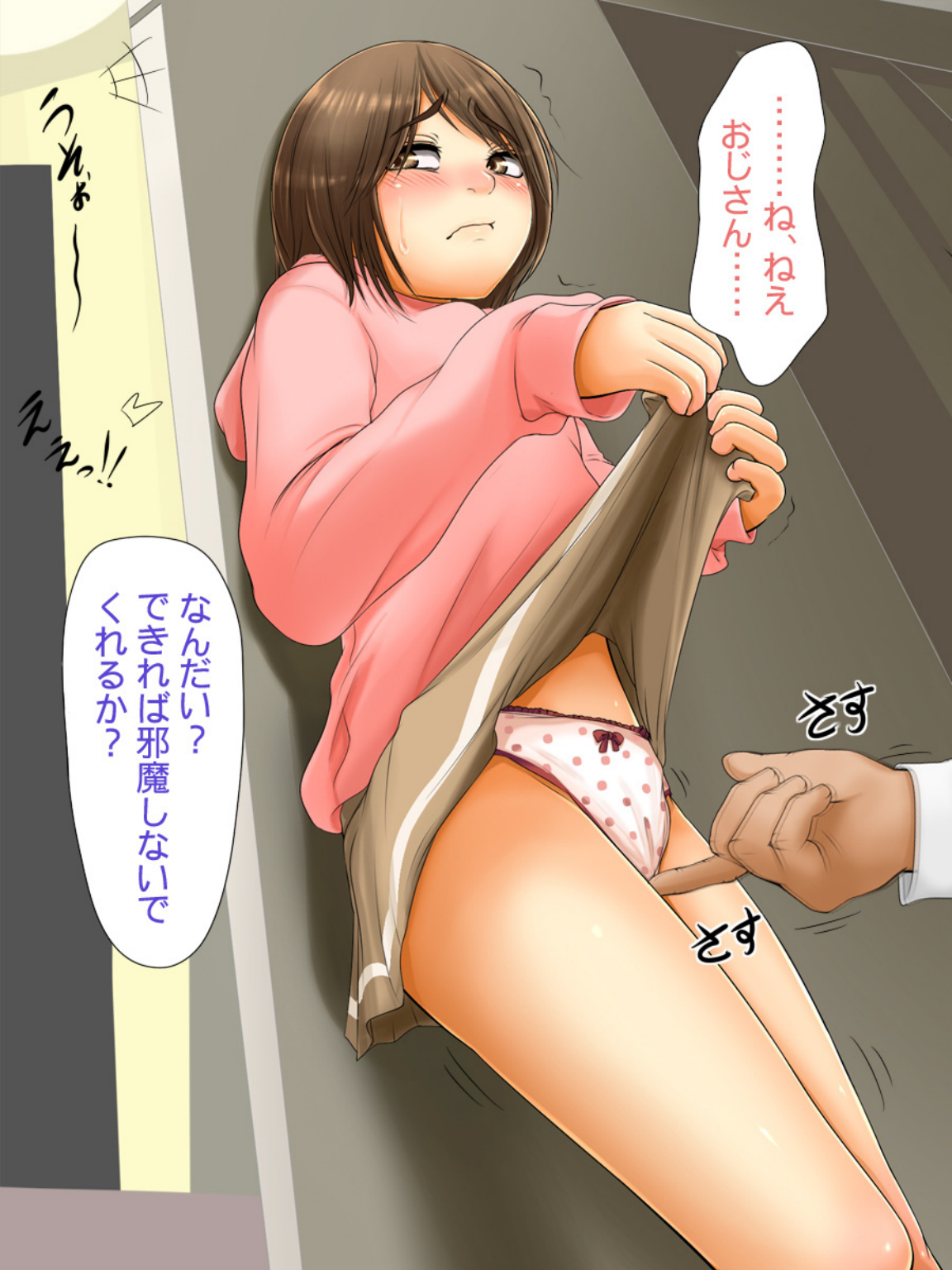
とす

とす

なんだい？
できれば邪魔しないで
くれるか？

うん、うん

とす!!

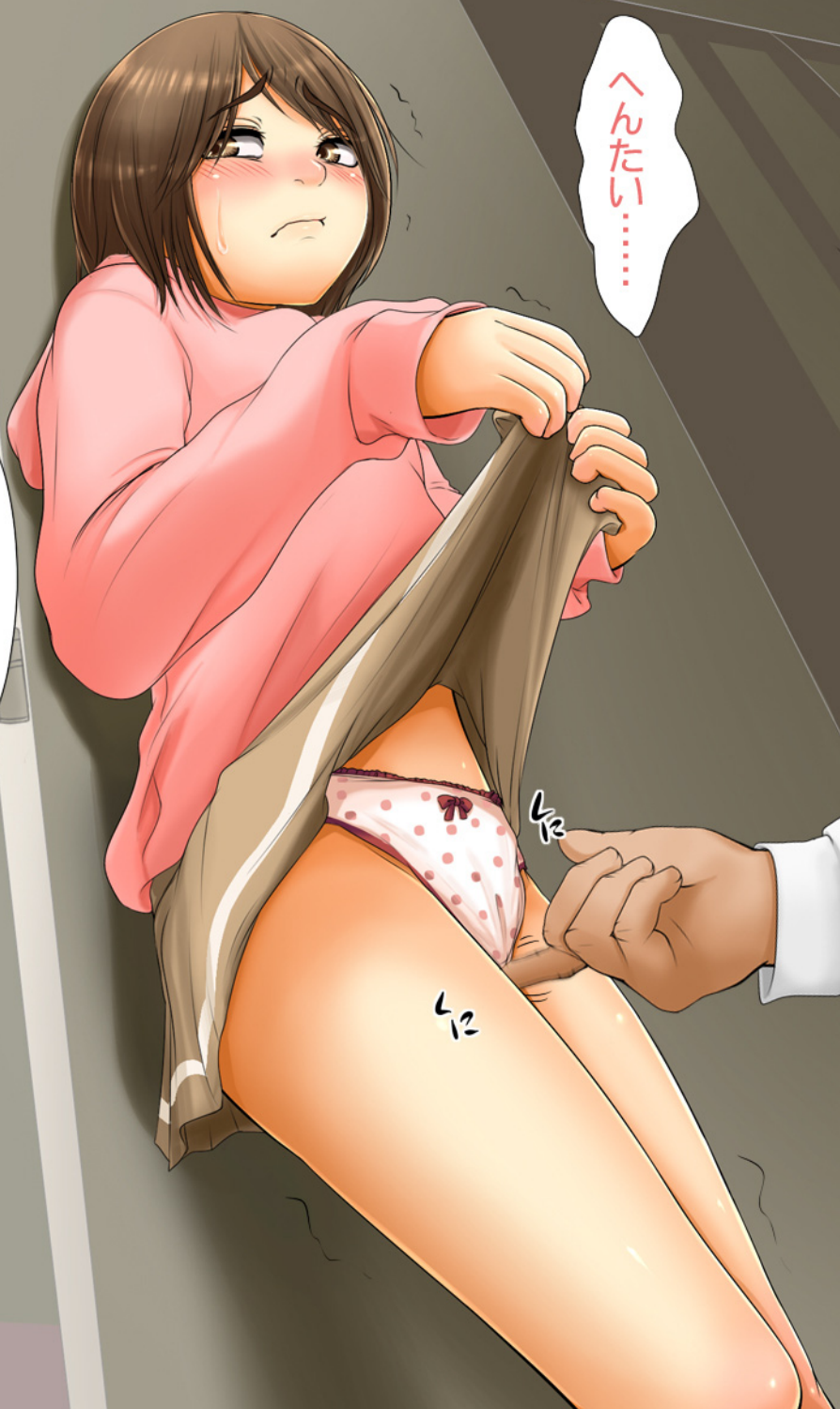


あ、は、は、は、は、

へんたい……

お金でパンツを
晒す凜もな

な、な、な、



……あのね……
確認しておきたいんだけど……

……どうぞ……

ガハハハハハ
パンツを脱いで渡すと
どうなるの？
それを触ってもらって
…可能？

ゆっ
ゆっ
ゆっ

「凜…寿司好きか？」

「…うん…マグロとか…」

地肌

パンツ

「魚だけ食べたら刺身だな?ご飯だけ食べたら酢飯だ。」

「……うん……」

パンツ越しの柔らか肉

「俺は寿司が**い**いんだよ。」

「…うんわかった……なんか目がゴワいから
もうごちゃごちゃ言いません…」

「お前のそういう物分りの**い**いトコ…昔っから好きだ♪」

「わたし…おじさんの事嫌い**い**になりそう……」

「お～～いタケシく～ん、凜～～
どこだぁ～～ちょっとこお～～い」

「…酔っ払いが…呼んでるよ…」

「まったくあの酒乱どもは…娘の顔が見たいわ…」

「……………」

「あ…ここでパンツ見せてた…」

「…………おじさん…お金もらった後、嫌い**い**になるからよろしくね…」

はいはい
それじゃ続きは居間でな

え〜……

ギ
ギ
ギ

……

え〜……

まぐ〜
むすこ〜



手に取って頂き誠にありがとうございます。
体験版はここまでとなっております。

是非製品版をご覧になり
二人の辿るエロエロな顛末を
お楽しみください。

